

藤田 枕流(ふじた・ちんりゅう)

1、プロフィール

俳人。俳誌「草苑」主宰桂信子に師事。俳誌「渋柿」創刊に参加。俳誌「渋柿園」三代目代表。「表現は平明に内容は深く」を信条とする詠風。俳人協会青森県支部長等を歴任。

<生没>

1935(昭和 10)年8月 28 日 ~ 2014(平成 26)年 12 月7日

<代表作>

残雪や餅屋は昼で店じまひ
境内に朝の箒目一位の実
父よりも祖父よりも生き新茶濃し
身につかぬ髭を生やして文化の日
熱爛や俳論はもうそこまでに

<青森との関わり>

弘前市生まれ。県立高校に勤務。俳人協会青森県支部長、青森県俳句懇話会副会長として県俳壇を牽引した。

2、作家解説

昭和 10(1935)年、弘前市生まれ、本名は功。弘前大学文理学部卒。三本木高校、弘前工業高校、黒石高校、弘前工業高校などに英語教師として勤務。

昭和 49 年、俳誌「渋柿」(後に「渋柿園」と改名)の創刊と同時に参加。50 年、俳誌「草苑」主宰桂信子に師事。〈一尺をいきなり跳びぬあめんぼう〉を詠む。52 年、俳誌「渋柿園」第 1 回新人賞受賞。57 年、俳誌「渋柿園」三代目代表となる。同年、弘前俳句連盟副会長(事務局長)に就任。58 年、俳誌「渋柿園」第 1 回渋柿園賞受賞。〈天保の墓石ざらざら木の芽風〉を詠む。

平成8(1996)年9月 15 日、句集『雪解風』を草苑俳句会から出版。9年から9年間、社団法人俳人協会青森県支部長を務める。この間「俳枕」を企画発刊。10年からヨークカルチャーセンター俳句講師を務める。13年から17年まで「陸奥新報」1面コラム「日々燦句」を執筆。17年4月23日、句集『古希』を文學の森から出版。18年から社団法人俳人協会青森県支部顧問となる。19年から21年まで3年間弘前文芸協会会長を務める。20年から青森県俳句賞選者となる。同年、陸羯南会理事に就任。22年、第30回弘前俳句賞受賞。23年、社団法人俳人協会カレンダーに〈残雪や餅屋は昼で店じまひ〉が掲載される。同年、青森県俳句懇話会副会長に就任。26年3月10日、句集『八十路坂』を東奥日報社から出版。

平成2年、弘前俳句連盟会長感謝状。11年、青森県高等学校文化連盟会長感謝状。21年、青森県俳句懇話会会長感謝状。感謝状が示す通り、温厚で指導力、実行力に富み、県俳壇を牽引してきた一人でもある。